

手話の【パ】【ピ】【プ】【ペ】【ポ】の話

手話には、日本語の口形（音声）を付けて表現する場合とは別に、「手話口形」と呼ばれる口の形を示すことで、意味を付け加えることがあります。これは、声を出さない「日本手話」独特の文法です。「手話口形」は、すっきりと分類・整理するのが難しいのですが、使われる場面や文脈、動きや速さ、表情で意味が変わります。また、特定の手形（手話をするときの手の形や動き）と結びついて意味を表す場合もあります。その中で、「パピプペポ」の口形を用いる表現について、クイズ形式で御紹介します。

問題1（／新しい／の手話をする感じで）両手の指先をつまむようにして閉じ、上向きにして少し前（上）に出し、【パ】の口形を示します。①と②どちらの意味？

- ① 手つかずの、真新しい
- ② 台無し、どうしようもない



問題2（／得意／という手話をする感じで）親指と小指の2指を立てて、親指の先を鼻先に付け、手のひらはやや手前に向けながら、【ポ】の口形を示します。（このとき、手を斜め下に下げながらする場合もあります。）①と②どちらの意味？

- ① どうやって、何で（そうなるの）？
- ② とても無理だ、できっこない



問題3（何かを手の上にのせて口に近付ける感じで）手のひらを上に向け、手首の方を口元に近付け、【プ】の口形を示します。①と②どちらの意味？
（ちなみに以前、ドラマ「ドクターX」の中で、米倉涼子さん扮する大門未知子医師が、手術中に『私、〇〇〇〇の』と、この手話をしていたそうです。）

- ① いとも簡単に、朝飯前だ
- ② 清潔にする、きれいにする



他にも、／要らない／の手話に【プ】の口形を付けると「すみませんが、結構です」という感じの意味が含まれたり、／違う／の手話に【ペ】の口形を付けて「～じゃないの？」と尋ねたり、確認したりするような感じで使うものもあります。手話口形は、たくさんあります。下のサイトにも紹介されています。のぞいてみてください。

※ クイズの答えは4ページの下の方にあります。

ホームページの御紹介①
「手話のパピプペポの話」の記事を書くために、いろいろと調べていたら、見つけました。

「工藤手話企画」 <https://kudousyuwakikaku.jimdo.com/>
宮城県で手話関係のイベントや講習会などを行っている工藤豊さんのサイトです。御本人は、大学や専門学校でも手話を教えておられるそうです。YouTubeに手話口形の解説があります。

世界初！手話に特化したコミュニティサイト「しかく広場」 <http://shikaku.in/sign/>
投稿形式で、様々な人の手話表現を集め、動画を公開しているサイトです。リクエストも受け付けているそうです。



「電脳文化会館 香薷館」 <http://blue.ribbon.to/~korokan/>
日本手話の文法や言語学的に見た手話の特徴が詳しく解説され、ろう者の歴史や手話落語など様々なコンテンツもあります。



「古今東西！」補聴器メーカーいくつ言える？

日本で販売されている補聴器は、アメリカやヨーロッパのメーカーのものが多くいうことはよく知られています。最近では、メーカー名とブランドが一致しない補聴器会社があったり、名前が変わったりして少々ややこしいです。ということもあってか、自分の補聴器のメーカーや機種名、国名を知らない児童生徒は多いようです。

日本で販売されている補聴器メーカーやブランドについて、おさらいしましょう。



… 補聴器メーカー

… 人工内耳メーカー

補聴器を製造するメーカーは、補聴器だけでなく集音器やヘッドホン、ワイヤレス送受信機、あるいは音に関する測定機器や医療機器などその技術を生かして様々な製品を開発します。また、こうしたそれぞれの得意分野を持つメーカーがグループを作ったり、そうした会社を買収したりということもよく行われているようです。

よく言われる、世界の「6大メーカー」は、「フォナック」、「オーティコン」、「シグニア（シバントス）」、「リサウンド」、「スターキー」、「ワイデックス」です。このうち、フォナックは「ソノヴァグループ」として、カナダの「ユニトロン」と人工内耳の「アドバンスト・バイオニクス」と同じグループに属し、オーティコンは「ウィリアム・デマント・ホールディングス」としてスイスの「バーナフォン」と、リサウンドは、「GN Store Nord」としてアメリカの「ベルトーン」とそれぞれ同一グループに属しています。また、シバントスはもともとドイツにあったシーメンスの補聴器部門でしたが、現在は、複数のブランドを持ち、本社はドイツではなくシンガポールにあるそうです（※）。

日本の場合、以前はソニーも補聴器を作っていました。撤退してしまいました。国際的に名だたるメーカーでも補聴器に関しては苦戦するようで、技術的には決して負けてはいないのですが、総じて外国のメーカーに押され気味のような気がします。

※ この記事は、昨年12月に作成しました。その後、今年の3月1日に、ワイデックス社とシバントス社が合併し、新しく「WS Audiology」となることが発表されました。本社はデンマークとシンガポールの両方に置くそうです。ということは「6大メーカー」がさらに絞られて「5大メーカー」になりますね。

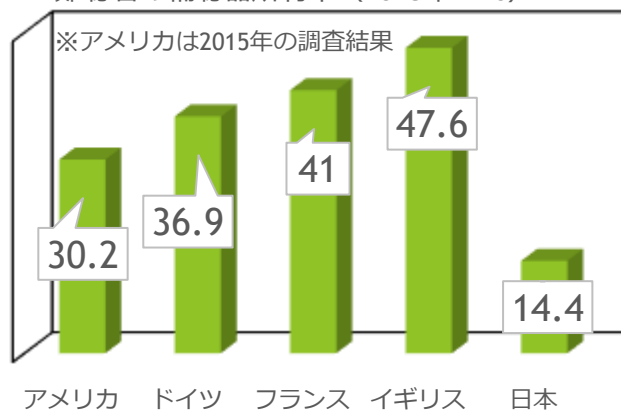
もう一つ、補聴器の話

2018年10月に、日本補聴器工業会は「JapanTrak (ジャパントラック) 2018」の結果を発表しました。これは、同会が、テクノエイド協会と欧州補聴器工業会 (EHIMA) の協力を得て行った調査で、我が国の人々が聞こえの不自由さ (難聴) や 補聴器についてどのように考えているか、補聴器の使用状況はどうなっているかなどについて調べたものです。これまで 2012 年、2015 年の 2 回実施しており、今回が 3 回目になります。この中に「補聴器所有率」についての報告がありましたので御紹介します。

高齢者が多いこともあり、日本の難聴者率は約 11% と高いのですが、難聴者が補聴器を所有する割合は、欧米に比べてかなり低くなっています (右グラフ)。また前回 (2015 年) よりも、フランスは約 7%、イギリスは約 5% 所有率が上がっているのに対して日本はほぼ横ばいであり、その差は広がっています。

その要因について報告書では様々な分析をしていますが、わずらわしいと感じる人が多いことや、助成制度を含めた費用面の問題が挙げられています。一方で、補聴器所有者の 89% が、補聴器により生活の質 (QOL) が向上していると述べているということであり、**補聴器を装着すること自体が、コミュニケーション環境を改善し、生活全体に好影響をもたらすことは間違いないようです。**

難聴者の補聴器所有率 (2018年・%)



アプリの御紹介①

J V 2 T (無料・Mac)

UDトークと同じ会話を文字で表示する音声認識アプリです。教えてくれた本校のO先生によると、音声認識のスピードが早いということでした。福祉機器販売の「自立コム」が作った、Mac 対象のアプリです。UDトークのような「トークに参加」の機能はないので、UDトークと使い分けると便利だと思います。



アプリの御紹介②

音声文字変換 (β版・無料・Android)

こちらもO先生、S先生から教えていただいた音声認識アプリです。みみちゃん担当者は Android なのでこちらを使っています。70 を超える言語、方言の音声文字変換に対応していますが、上の J V 2 T と違い、文字の保存はできないようです。また、このアプリはギャローデット大学と共同で作られたとのこと。



アプリの御紹介③

みえる電話 (無料・docomo 契約者対象)

通話サービスの御紹介①

このアプリを使って電話をかけると、相手の言葉をリアルタイムで文字に変換し、スマートフォン画面に表示してくれます。電話でしか受付けていない予約や、緊急を要する内容など、電話が必要になる場面で活用できます。3月から新たに開始されたドコモユーザーのみのサービスです。ドコモユーザーの方、ぜひ使ってみて、感想を聞かせてください!



通話サービスの御紹介②

みえる通訳 【タブレットを利用したサービス】

上の「みえる電話」を調べているときに発見しました。「みえる電話」と名前が似ていますが、こちらは、お店や事務所に設置されたタブレット端末を使って手話通訳のサービスが受けられるというものです。設置する企業が増えているそうなので、利用する機会があるかもしれませんね。

「耳の日まつり」

～ もう一つの耳の日イベントについて ～

3月3日、前号(90号)でお知らせした「耳の日の集い」が行われました。本校からも、数名の教員が運営のお手伝いをさせていただきました。

そして、実は同じ日に、もう一つのイベントが松山市内でありました。愛媛県聴覚障害者協会が中心になって行った「耳の日まつり～手話で楽しもう～」です。前号の発行日の関係で紹介ができませんでした。このイベントでは、「スポーツを頑張っている愛媛のろう者」と題して二人のろう者による講演がありました。一人は本校の佐藤先生で、「陸上との出会い」と「デフリンピック」の2題についてお話をされました。もう一人は、現在は協会の青年部長として活躍しているらっしゃる本校卒業生の山本さんで、「トライアスロンについて」という演題でお話をされました。機会があれば、お二人の話を是非聞いてみたいですね。

日本ろうあ連盟 70 周年記念映画出演者募集！

映画「ゆずり葉」(2009年製作)に続き、創立70周年記念映画を製作することになった全日本ろうあ連盟から、映画出演者募集のお知らせがありました。詳しくはホームページを御覧ください。

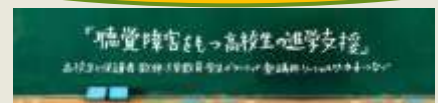
- 【募集条件】 ① 18歳～80歳までのろう者、10歳～14歳までのろう児
② 合格後、都内での練習、関東圏内・鳥取県での撮影(10月)に参加できる者。
- 【申し込み】 ① 履歴書 ② 応募理由・自己アピール ③ 顔写真と全身写真
- 【締切り】 4月1日(月)必着

「聴覚障害を持つ高校生の進学支援」

<https://www.ouchide-yobikou.net/>

ろう者で医師である今川竜二さんの記事をネットニュースで見つけ、関連記事を探していたら、ここに行き当たりました。このサイトは「聴覚障害をもっていて大学受験・専門学校進学を考えている人、学校の授業の予習復習をしっかりしたい人、とにかく勉強がしたい人を応援します。」ということで、メールなどでの個別相談や、国語・英語・数学の授業のポイントを説明したネットの動画配信、学習塾の運営(東京・新宿にあります)をしています。さらに調べていくと、このサイトは、日本社会事業大学の「聴覚障害者大学教育支援プロジェクト」の一つとして立ち上げられ、「視覚言語の世界」の著者である斎藤くるみ先生が中心となって運営されているようです。興味がある方は、アクセスしてみてください。

ホームページの御紹介②



編集後記

先日、羽田空港へ行ったときのこと。車椅子ユーザーでもあるみみちゃん担当者が、サポートカウンター(障がいなどで支援が必要な人のための専用カウンター)へ行き、空港のスタッフと話をしようとしたら、難聴者の聞き取りをサポートする「COMUON(コミュニオン)」を見つけました(写真奥)。でも結局、使わずじまいでした(20万円の機械が勿体ない…)。話の間、結構聞き返すことが多く、会話はスムーズではなかったですし、その時、私は補聴器も付けていたのですが、最後まで聞こえにくさには気付いてはもらえずでした。今回に限らず、車椅子へのサポートは、こちらから言わなくてもどんどん提案してくれることが多いのに、聞こえについては、難聴者自身がアピールしないとダメなんだと、改めて感じました。「難聴なので、それを使ってください」とこちらから言う必要があったんでしょうね。



1ページ(手話パピペポ)の答えは…、問題1は②、問題2は①、問題3は①です。
『私、〇〇〇〇ので』のところは、『私、失敗しないので』と字幕がついていました。